



TITLE:

凝集系種々相の最近の展望

AUTHOR(S):

CITATION:

凝集系種々相の最近の展望. 物性研究 1983, 40(3): 1-1

ISSUE DATE:

1983-06-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/91019>

RIGHT:

目 次 に 代 え て

京 大 理

松 原 武 生

この報告書は総合研究（A）「電子論を基礎とする凝縮系種々相の総合的研究」の班活動の一つとして開かれたシンポジウムにおいてなされた講演の要旨をまとめたものである。

このシンポジウムは昭和58年3月16日より3月19日までの4日間にわたって、京都市左京区修学院の関西セミナー・ハウスにおいて開催された。研究班の分担者および3名の招待講演者による17題のレビュー講演が十分な時間をかけて発表され、活発な討論もあつて、なかなかの盛会であつた。参加者は連日平均30名を数えたが、参加できなかつた人々にも折角の講演の内容を知つて頂こうと、この報告書の形にまとめて公表することにした。

もちろん今回のシンポジウムの講演が、この研究班の目指す凝縮系種々相のすべてを尽すものではない。われわれの希望は、この種の総合研究がさらに継続され、それによって得られる凝縮系全般についての広い視野と深い洞察が、将来の創造的発展に少しでも寄与することである。

以下に講演者の氏名とその題目を列挙する。

1	高密度プラズマ中の多体相関	東辻浩夫	2
2	希土類金属における共鳴X線散乱	渡辺 剛	7
3	励起子ボラリトンと表面	中山正敏	13
4	転位空間の問題に現われる Aharonov-Bohm 問題とその拡張	川村 清	19
5	フラストレーションのある磁性体の相転移の実験	目片 守	26
6	フラストレーションを含むスピン系の計算機実験	高山 一	32
7	固体 ^3He の反強磁性の UUD 状態の磁性理論	宗田敏雄	38
8	遍歴電子強磁性の最近の話題	志水正男	44
9	周期的アンダーソン・ハミルトニアン基底状態	山田耕作	52
10	2次元超伝導における Anderson 局在	黒田義浩	58
11	反強磁性超伝導体	鈴村順三	64
12	生体膜の相転移、吸着原子の C-IC 転移	伊豆山健夫	70
13	黒リンについての最近の研究	森田 章	78
14	グラフアイト層間化合物のバンド理論と物性	上村 洸	84
15	遷移金属化合物における電子-格子相互作用と構造相転移	望月和子	88
16	界面キンク等の運動と相転移の kinetics	川崎恭治	94
17	水素結合型誘電体の構造相転移と同位元素効果	松下栄子	96